

# ルネサンスと 宗教改革

ヴァチカン美術館のらせん階段

14世紀から17世紀のルネサンスと宗教改革に関連する代表的遺産を紹介します。

## 1 ヴァチカン市国

Vatican City

ヴァチカン  
文化遺産 / 登録年: 1984  
登録基準: (i) (ii) (iv) (vi)

ヴァチカン市国は、1929年、ローマのサン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ聖堂において、教皇庁とムッソリーニ率いるファシスト政権とのラテラーノ協定で成立した。サン・ピエトロ旧大聖堂は、キリスト十二使徒の筆頭ペテロがネロ帝の迫害で殉教したとされる地に、324年コンスタンティヌス帝が建立し、15世紀なかごろの改修まで存続した。イタリア・バロック建築の代表作である新聖堂は、ブラマンテの設計を基に1502年着工したが、一時中断後ラファエロやミケランジェロなど盛期ルネサンスの芸術家がさらに建築を続けた。内部には様々な祭壇やモザイク、彫刻を納める。ミケランジェロは高さ132.5mの大円蓋を設計し、システィーナ礼拝堂の天井画「創世紀」も手がけた。大聖堂の前には、17世紀後半にベルニーニ設計のサン・ピエトロ広場が広がる。広場は4列、284本のドーリア式円柱廊に囲まれ、柱廊の上は140体の聖人の彫刻で飾られている。ローマ教皇のヴァチカン宮殿は、ベルニーニ設計の大階段で大聖堂とつながっている。宮殿内には、教皇の居住館、ミケランジェロの天井画や壁画「最後の審判」で名高いシスティーナ礼拝堂、ヴァチカン美術館などがある。また「アテナイの学堂」のある「ラファエロの間」など、宮殿はルネサンス芸術の一大宝庫。ヴァチカン美術館は、エジプト美術館、エトルリア美術館、ピオ・クレメンティーノ美術館、絵画館、キリスト教古文書を収集する図書館などの総称で、ユリウス2世の蒐集品が核となっている。

## 2 ヴァルトブルク城

Wartburg Castle

ドイツ  
文化遺産 / 登録年: 1999  
登録基準: (iii) (vi)

ドイツ中部に立つヴァルトブルク城は、11世紀半ばにチューリンゲン地方伯の居城として創建された後期ロマネスク様式の城である。19世紀末に現在の姿に修復された。城内の邸宅や騎士館には12世紀のものも現存している。12世紀には、ヴァーグナーがオペラ『タンホイザー』で取り上げた歌合戦が、この城の広間で盛んに行われていた。また、宗教改革を唱えて神聖ローマ帝国を追放されたマルティン・ルターは、1521年、当時の城主ザクセン選帝侯によって保護され、ヴァルトブルク城で聖書のドイツ語訳を完成させた。他にもゲーテが詩の題材に取り上げたり、ドイツ学生団体が宗教改革300周年記念大会を開いてドイツ統一をうたうなど、ドイツの精神史にとって重要な遺産である。



ヴァルトブルク城